

日本の学術情報発信状況論点の整理
(SPARC Japan 第 3 期検討に向けた論点)

1. 前提

- (1) 学術情報の「電子化」は当然
- (2) 「学術情報」とは何かについてのコンセンサスが必要
ジャーナル、図書、紀要、学位論文、・・・
→？電子化でき（てい）ないものがまだ相当数ある。
その理由は何か。
その解決策は？
- (3) 5年-10年有効な「電子化」の明確な定義 DTD 等
- (4) 既存のオンラインジャーナルとの関係 5(1)参照
- (5) 紙を残すかどうかはその運営主体の判断に委ねる。
- (6) 位置づけと目的の明確化
英語が当然の分野
日本語が中心の分野
 - a. 国際学術誌 世界と競争しうる領域(英文誌中心)
 - b. 日本、アジア、世界の文化を支え発展させる
 - c. 地域性を持つ
北方研究、沖縄亜熱帯生物研究所
 - d. 日本の産業基盤と直結
工学系、応用科学、薬学系、医療技術、計測技術、デバイス技術等
？民間企業『技報』との関係は？

2. ビジネスモデルの構築

この場合のビジネスモデル

- (1) 経営組織として中期的(10年?)に維持運営ができるサステナビリティ
- (2) ステークホルダーが WINWIN になる
研究者
学協会
学協会出版者
事業体
大学
大学図書館
大学出版局
国会図書館
研究所
学術出版社
著作権管理団体
研究資金支援者
- (3) 良いプラットフォーム
作る？

既存のものを使う（買う）？

(4)「アクセス」が良い。

a. 研究者が使いやすいもの

- ・直感的に使えるもの
- ・クリック数は少なく
- ・各種専門 DB、CiNii、Google Scholar 等との相性の良さ

b. 情報利用者のニーズ、行動原理に合うもの

- ・届けたい利用者（その分野の研究者）
- ・より多くの利用者（関心を持つ人・社会、これから学ぶ学生、生涯学習）
に届けるかを意識した発信が必要となる。

c. 国際的なプラットフォームとの直接連携（複数存在してかまわない）

- ・BioOne, Project Euclid 等との連携
- ・サービス提供者と上手なコミュニケーション

d. データ標準化による連携

- ・API の公開など
- ・連携したサービスを提供したいものが自由に利用できるように
- ・利用統計の整備
- ・COUNTER 準拠
- ・評価への対応

e. 発見可能性を高める方策の実施

- ・フルテキストデータのインデキシング可能性の確保、
- ・XML データ作成等

f. 定性的/定量的な評価とフィードバックのあり方

(5) お金を出す側の理解を求める活動も必要

アドボカシー

3. オープンアクセスとの関係

研究活動のアカウンタビリティは今日、必須である。

基本的にはオープンアクセス（これも明確な定義とその周知が必要）

エンバーゴの活用

複数の購読モデルとその運用ができるような体制

ステークホルダーが相互理解可能な活動

4. 上記を支える人と組織の確保と育成

中小協会のこれらの要員を揃えるのは無理。どのような組織が望まれるか。

(1) 編集者

(2) 編集を支える技術者

(3) アクセスログ解析、インターフェイス向上等の施策・プラットフォームの評価ができる人材

(4) 大学及び研究所の図書館員（「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について（審議のまとめ）」 p. 5 参照

(5) 企画

(6) 広報

(7) 財務経理

(8) 法務

現在、SCPJ が担っている役割をどう継承するか

(9) 上記を包含したアドバイザー、研究開発活動を行う組織の設立

(参考) JISC Advisory Services

<http://www.jisc.ac.uk/whatwedo/services/about/advisory>

(10) 関係研究開発機能を担うプロジェクトと組織

(参考)

・ eFramework (研究・教育・学習・アドミニストレーションのプラットフォームに関する JISC 等の国際プロジェクト)

<http://www.e-framework.org/>

・ Plagiarismadvice.org

http://www.plagiarismadvice.org/wp/?page_id=2

5. 短期的な課題

(1) 既存システムとの関係をどう取るか

SPARC-Japan

NII-ELS (アーカイブ)

GiNii

NII-REO (海外ジャーナルの保存と利用)

J-STAGE

Journal@rchive (アーカイブ)

J-GLOBAL (科学技術総合リンクセンター)

国会図書館

メディカルオンライン

機関リポジトリ

各学協会誌・紀要

(2) 当面必要な技術とその動向をどう把握するか

(3) 教育との関連

学習教育面、eLearning への目配り

(4) 関係する国際団体との連携をどう把握し、関与するか

(5) ステークホルダーの(緩やかな)連合体の必要性

6. 中長期的な課題

(1) いわゆる商業出版者との関係

(2) 技術動向との連動

(3) eScience

(4) 保存 a. 電子媒体の保存

b. その他媒体資料のデジタル化と保存

技術/施策/実践それぞれの問題解決